分子振動活性装置
『ハイエット』で特秀メロン

㈱日本創造エネルギー研究所の分子振動活性装置「ハイエット」を同社の代理店である㈱くらぜんから導入してメロンを作っている野原隆さんは、今年も茨城メロンを最も早く出荷したという。しかも「乙女」に次いで早くから出荷した「アンデス」は糖度が高くて18度以上もあり、秀品収量も多かったため高値で取り引きされたそうだ。

野原さんは去年の秋から「ハイエット」の25型を導入して試験を試みているが、想像を絶するような効果にすっかり魅せられ、今年はいろんな部分に使用しているようだ。

すばらしい苗できる
根張り、活着がよい

茨城県鉾田町
鹿田
野原 隆さん

「日頃お世話になっているくらぜんの大島さんに、ハイエットという高分子活性装置の話を聞いたけれどもやってみないことにははたして良いか悪いかわからないのでためしに使ってみるからといって持ってきてもらったわけなんです」と動機を話してくれる。

去年の7月のことだった。秋作のアールスメロンで育苗、潅水、消毒などいろいろ使ってみたところ、苗は普通よりも締ったたいへん良いものができた。それを定植したところ、根張りがよく、活着もスムーズにいった。

「たいへんしっかりした苗ができたので、これだけでもハイエットは苗作りに効果があることがわかりました。それで今年は春作とアールスメロンのどの作型の苗作りにもハイエットを使うことにしました。いいということが確認ずみだったんです。間違いなく苗は老化しないというのもありました」

野原さんは春作で1.4㌶、秋作1㌶栽培している。春作のいちばん早い作は「乙女（おとめ）」。11月1日に「ワンツーアタック」という台木を、その1週後にメロンを播種する。早い作型では根が強くなければ根張りが遅いとあって、台木選定が一つのポイントのようだ。なお、「乙女」はタキイ種苗と茨城の大島種苗の研究によるもので、近年ひじょうに好評を呼んでおり、茨城県では普及率が高い。

これに次ぐ作型が「アンデス」で、12月末頃の播種である。基本的には芯止め後2～3日たってからの定植になる。高分子活性装置「ハイエット」は25型というタイプをまず苗作りに使用した。

その結果、ひじょうにすばらしい、よい苗ができ、しっかり根が張り活着もよかった。「とにかく素敵な苗ができることがこの目ではっきりとわかった」という。

なんと糖度19度内外
臭みがなく食味も最高

育苗期間中はその日の天気にもよるけれども、春作の場合はだいたい2～3日に1回くらいのペースでやるようにする。

本圃の潅水と消毒用にも今年は「ハイエット水」を使うようにした。野原さんは去年も初出荷をしたが、今年もいちばん早い出荷だった。それだけではない。この人はすぐれた品質のメロンを作る技術も持っている。

「いつもの年も秀品率は8割から9割になっていたと思いますが、今年は一段とよかったみたいです。うちらの組合にはは特秀という規格のものがありまして、それも今年はだいぶ出ました。特秀というのは2L、3Lで糖度は18度以上あるものに限られますが、価格も秀より300円から400円高いんです」

野原さんの「アンデス」は悪い年でも糖度は平均17度だが、今年は平均で18度あり、中には19・5度というのもあったそうだ。近所の人が割ってみたら20度あったそうで、こんなに美味しいメロンは食べたことがないと感心していたという話も聞いた。

農協の平均は15・5度から16度だということだから、いかに甘いものであったかがわかるというもの。しかも、こうしたメロンは食べたあと青臭いといわれるけれどもそういうことは全然なかったというから、さぞ食味がすぐれたものだったと思う。

「品種的にはみんなと一緒のものを作っているわけですから、他の人と違うところといえばハイエット水を使っていることと、水を早めにくれていること、それに窒素は普通の人の半分ていどにおさえていることだけでしょうと野原さんはいっている。

肥料成分は6：12：10というのを普通は使っているが、野原さんは3：9：5というもので、窒素の成分量は半分のものを2袋半ぐらいしかつかっていない。

「肥料を半分に減らしなさいといえば大概の人は気持ちが悪くてそんなことはできないというと思いますが、それでもちゃんとできるんですから、いままでの肥料に対する考え方を改める必要があるのではないでしょうか」

たいへん納得のいく話だ。土壌検査をしてもらったら、リン酸は過剰気味だといわれたので、ここ2年くらいは減らして、土改剤を中心に使用しているそうだ。そのほうにかえって金がかかりますと野原さんは笑っている。

早出しナンバーワン
農薬代もかなり節減に

交配後「乙女」は早いので約60日、「アンデス」は55日から60日だが、農協の指導よりも5日ぐらい早く切っていいあんばいだそうだ。

時期によって違うけれども、「アンデス」は2L、3Lが70％ていど占める。病気については春は一時期ベトが見えたけれども、いまのアールスはやはり多少ベトが出ているが、梅雨時だからやむを得ないと思う。しかし、全体を通して、病害の発生は全く少なく、農薬の使用量もかなり節減になっているという。これも、「ハイエット水」のおかげかもしれないといっている。

農協のメロン部会は今年は90人に減っている。減ったのは葉物に転向した人たちだそうだ。最盛期は150人はいたようだ。またそのころは後継者も多かったけれども、このごろは勤めに出る人が多いとか。

しかし、野原さんのところはたのもしい後継者ができている。春作が終わったらアールスメロンの栽培に移行する。品種は雅春秋、稚夏、雅春秋、11月まで引っ張る人は雅秋冬を作っている。品種は多いわけだから、作る気さえあれば、一年中メロンと関われるわけだ。

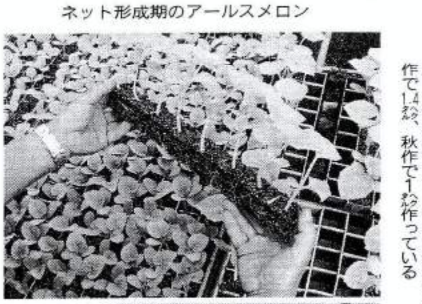
周年栽培のよき助っ人

「ハイエット」を使えば、そういうこともできるのではないかと野原さんはいっている。

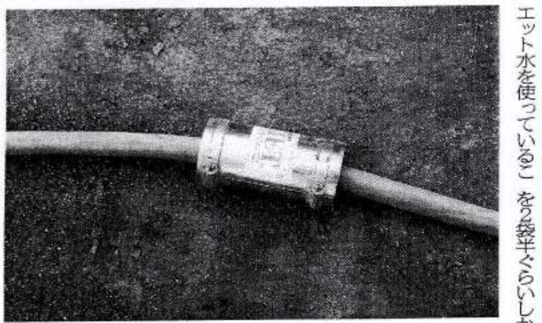
また、実際にそれを実現しているのが野原さんで、周年栽培のよき助っ人が「ハイエット」のようである。

「ハイエット」を使って高品質、高糖度メロンを作った野原隆さん

ネット形成期のアールスメロン



（上）よい根が出ており、育苗は大成功と野口さんは語る（下）ハウスの全景、春作で1.4㌶、秋作で1㌶作っている



分子振動活性装置「ハイエット」。ホースまたは潅水パイプに取り付けるだけ

「ハイエット」の製造元と代理店
日本創造エネルギー研究所（東京都武蔵村山市伊奈平5−87−5電話042−560−0331）
代理店 ㈱くらぜん（茨城県下妻市半谷491−22電話0296−43−8000）

刺し易く、飛ばされにくく、抜き易い
マルチ・防草シート・不織布止め具の決定版
タフベル・パオパオ・パスライト
アグリシート等 各種シート止めに
黒丸君®

IDEA SERVICE
株式会社 槍木産業
千葉県山武町横田1069−32
TEL.0475−89−1444
Fax.0475−89−1450
www.utsugi-industry.com